

望月晴美

# 要 澆

かなめだき

林 翔

本書には夫君を詠んだ句が点在し、幸福な妻だった著者を思う。一転して夫君の逝去。その悲しみの底から俳人望月晴美は見事に立ち直った。堂々たる風景句等がそれを証明する。

フォルテもて「第九」を歌ふ嚴寒期

近づいて人肌ほどの薄紅梅

初蝶にきつと逢へささう植木市

真裸の夫を善人と思ひけり

生れし蟬しばらくはその殻に添ふ

涅槃図のうら側なんとなく覗く

体液の白だしきつて繭となる

うすものに連れ立つ背広まさらなり

戸口まで青田のうねり合掌家

夫逝けりこの夏帽の旅のあと

炎帝に召さる火のごと生きし夫

向日葵や夫になかりし老残期

曼珠沙華どこかさびしき一途の朱

遠目にも凍つ一山の要滝

師おもへば朴はますます仰ぐ花

能村家の師の亡き庭に朴落葉

若き日のなんと重たき登山靴

しばらくは灯さずにゐる良夜かな

古き世の木の香鉄の香農具市

京都東福寺

慈愛ゆたか涅槃図に猫加へあり

天<sup>あ</sup>降<sup>も</sup>りくる春雪母のみ魂とも

ふんはりと古畳解く二月畑

亡き母の名入り鞆と春の旅

喪の色の末黒野に佇ち明日ありと

柏井小学校の校歌聴く

師の作詩てふあたたかき校歌かな

さくら咲く重さうにいやかるさうに

亡き夫の学舎訪ふも花の旅

両の手でつつんでみたき春の月

ありし日の母がけぶれる藤あかり

鴨去つてしまひし水に手を浸す

旅 戻 り ま づ は 仏 間 へ 青 葉 風

歩 く ほ ど 紅 さ す 素 足 白 渚

句集  
要  
滝

かなめ  
だき

現代俳句10人集 第XVII期⑦

発行日……平成十六年三月十四日

著者……望月 晴美

発行者……小島 哲夫

発行所……北 溟 社

発売元……(株)ほくめい出版



東京都新宿区山吹町三四四 第三英晃ビル2F

郵便番号 一六二一〇八〇一

電 話 〇三―五二二五―〇七三三

F A X 〇三―五二二五―〇七二四

©2004 Mochizuki Harumi Printed in Japan

ISBN4-89448-454-4

(落丁・乱丁はお取り替えます)

PDF制作 俳誌のsalon